

あかふじ

ニュース

第 2 号

発行 平成 20 年 8 月
山梨県消防防災航空隊



(岩手・宮城内陸地震における応援ヘリコプター駐機状況：仙台市消防ヘリポート)

目 次

- あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 緊急消防援助隊出動報告(岩手・宮城内陸地震)・・・・・・・・・・ 2
- 合同訓練実施内容(平成20年1月～7月)・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 災害活動件数・各種合同訓練実施予定・隊員紹介・・・・・・・・・・ 5
- ヘリコプターテレビ伝送システムについて・・・・・・・・・・・・・・ 6

《山梨県ホームページ》

<http://www.pref.yamanashi.jp>

《やまなし防災ポータル》

<http://www.pref.yamanashi.jp/bosai>

山梨県消防防災航空隊

〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 445-1

T E L 0 5 5 1 - 2 0 - 3 6 0 1

F A X 0 5 5 1 - 2 0 - 3 6 0 3

E - m a i l bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

あ い さ つ

県内各消防本部の皆様、並びに防災関係機関の皆様におかれましては、日頃から消防防災航空隊の発展及び各種災害対応にご尽力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

消防防災ヘリコプターは、昭和41年に東京消防庁航空隊が創設されて以来、政令指定都市消防本部が順次導入し、また、平成7年1月に発生した「阪神・淡路大震災」以降に、地域における危機管理意識は一層高まり道府県においても導入が急激に進み、平成20年3月現在では、45都道府県において52の団体で70機が運航されています。

山梨県においても平成7年に「あかふじ」導入、今年14年目にして約3,900時間の飛行を行っておりますが、事故等なく安全に運航して参りました。

近年、災害列島とも言われている我が国において、地震や台風による集中豪雨等の自然災害による被害が大規模化、広域化することによりヘリコプターの機動力を生かした消火、救助、救急及び情報収集等とその任務は多岐にわたり、また、大規模災害時には緊急消防援助隊として全国に出場することも視野にいれ活動しています。県内においても、東海地震等各種災害に備え、航空体制のさらなる強化、整備をしているところです。

今後も、ヘリコプターを活用しての航空消防隊の特性をさらに認識していただき、地上消防隊との現場での連携活動等が安全かつ有効に進められるようご理解、ご協力をお願いいたします。

山梨県消防防災航空隊

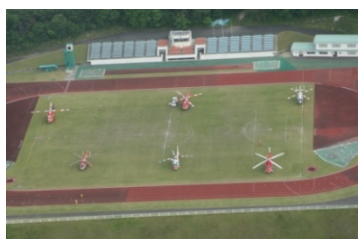
隊長 丸山 裕司

緊急消防援助隊出場報告(岩手・宮城内陸地震)

平成20年6月14日(土)8時43分頃、岩手県内陸南部を震源とする岩手・宮城内陸地震が発生、地震規模はマグニチュード7.2(暫定値)岩手県奥州市及び宮城県栗原市は震度6強を観測しました。



当航空隊は、6月15日から17日まで緊急消防援助隊航空部隊として宮城県へ出場、仙台市消防ヘリポートに集結し災害活動を実施した。活動にあっては、拠点ヘリポートを築館総合運動公園グラウンド(7機駐機可能)とし、道



(築館運動公園場外着陸場)

路が寸断され陸路での移動が不可能な湯浜地区、栗駒地区へ人員及び物資搬送等を実施しました。

災害現場の状況については、湯浜地区及び栗駒地区とも、いたるところに土砂崩落や土石流の発生が確認され、消防機関のみならず、自衛隊、国土交通省、海上保安庁、県警等の多数の関係機関が連携し捜索、救出活動を実施していました。

今回、航空部隊活動に宮城県内の被害の少ない消防本部から航空隊OB隊員が応援職員として派遣されており、事務所及び拠点ヘリポートで情報収集・場外離着陸場の安全管理等の活動を行っていました。ヘリコプターの特性及び県内の状況を確認している航空隊OB隊員派遣は大変有効に見受けられ、各航空



(駒の湯温泉の被災状況)

隊員は安心して災害活動に従事することができました。

大規模災害時には、消防防災ヘリコプター及び各関係機関のヘリコプターが多数集結し災害活動等を行います。そのため、迅速な災害対応及び場外離着陸場の安全管理等を行うには、受援消防本部職員及び現任の航空隊員だけでは対応が困難になる場合があるので、航空隊OB隊員の派遣について、御理解、御協力をお願い致します。



(栗駒場外で搭乗準備をする救助隊員)

《活動概要》

6月15日(日)

- ・ 応援要請(8時33分)
- ・ 仙台市消防ヘリポート着陸
- ・ 人員搬送等 6回
(神奈川県警12名、消防職員17名、救助資機材)
- ・ 物資搬送 1回(飲料水等)

6月16日(月)

- ・ 人員搬送等 6回
(消防職員23名、建築関係職員1名、栗原市職員4名、救助資機材)
- ・ 物資搬送 2回
(飲料水、食糧、簡易トイレ)

6月17日(火)

- ・ 仙台市消防ヘリポート待機
- ・ 応援要請解除(8時45分)
- ・ 山梨県消防防災航空隊基地着陸

合同訓練実施内容

冬季合同水難救助訓練

（富士五湖消防本部：平成20年1月8日）

山中湖村平野山中湖にて富士五湖消防本部及び同本部水難救助隊との冬季合同水難訓練を実施した。冬季の行楽シーズン中における湖での水難事故に備え、水難救助隊との連携活動の確立及び救助技術の向上を図った。



より、相互の協力体制の強化を図り、火災防御技術の向上と一般市民へ広く火災予防思想の普及啓発を図ることを目的として行われ、空中消火活動等の連携活動を実施、災害対応の向上を図った。

山林火災防御合同訓練

（峡南消防本部：平成20年3月2日）

春の火災予防運動の一環として、峡南消防本部及び増穂町消防団との山林火災防御訓練が、増穂町殿原スポーツ公園野球場にて実施された。訓練を通じて相互の連携を図り、「あかふじ」への給水方法を習得してもらい、上空から町内の危険個所を確認した。

林野火災防御合同訓練

（甲府地区消防本部：平成20年2月29日）

甲府地区消防本部管内において、林野火災時における航空消防隊と地上消防隊との連携訓練を実施した。地上消防隊が簡易GPS装置（世界座標）を使用、無線通信を行いながら消防防災ヘリコプターを目標ポイント上空に誘導し、災害現場の状況をヘリコプターテレビ伝送システムにより山梨県庁から甲府地区消防本部に画像伝送を実施、消防活動上要求される情報収集を行った。また、地上消防隊よりポンプ給水を行い、空中消火活動訓練を実施、災害対応の向上を図った。

林野火災消防演習

（東山梨消防本部：平成20年3月2日）

甲州市塩山平沢地区で行われた林野火災を想定した消防演習に参加。この消防演習は、春の全国火災予防運動の一環として塩山消防署及び甲州市消防団により実施された。航空隊により上空からの延焼状況及び延焼拡大危険等の情報伝達訓練、並びに消火活動中に発生した怪我人の救出救助訓練を行い、地上消防隊と航空隊との連携活動の向上を図った。

総合消防訓練

（甲府地区消防本部：平成20年3月1日）

春の全国火災予防運動の一環行事として敷島総合公園にて総合消防訓練が実施された。空気が乾燥し、林野火災の発生を憂慮される時期に各関係機関が合同で訓練を実施することに



山林火災防御合同訓練

（都留市消防本部：平成20年3月5日）

春の全国火災予防運動の一環として都留市楽山球場において、山林火災を想定した給水・散水訓練を実施した。地上消防隊員によりポンプ給水を行い、空中消火活動を実施、山林火災発生時の対応方法及び地上隊と航空隊との連携活動の向上を図った。

救急搬送・上空偵察合同訓練

(笛吹市消防本部：平成20年3月5日)

笛吹市消防本部・消防団と合同訓練を実施、芦川ヘリポート場外離着陸場にて重症患者を3次救急医療機関への搬送を想定した救急搬送連携訓練を実施した。ヘリコプター離着時の注意事項の確認や機体に患者を収容する訓練を行い、連携活動の向上を図った。また地震災害等における危険地域及び避難場所の上空偵察を実施した。



救急搬送合同訓練

(峡南消防本部：平成20年3月11・12日)

消防防災ヘリコプター救急搬送時における、傷病者の引き継ぎ・引き渡し等について連携体制の構築を図るため、身延町富士川クラフトパーク芝生広場にて訓練が実施された。交通事故(高エネルギー事故)を想定し、現場上空にてホバリングしての現場ピックアップ訓練や場外離着陸場での引き継ぎ訓練を行い、「あかふじ」の機動性を認識し、有事の際に有効な活用ができるよう連携が図られた。



隊員投入訓練

(大月市消防本部：平成20年3月28日)

大月市総合グラウンドにおいて、林野火災・山岳での救急・救助活動を想定した隊員投入訓練を実施した。事前に航空隊基地にて駐機訓練を行い、安全対策を図り、訓練を実施した。また、上空から市内の危険箇所及び避難場所を確認した。

山梨県水防訓練

(平成20年5月18日)

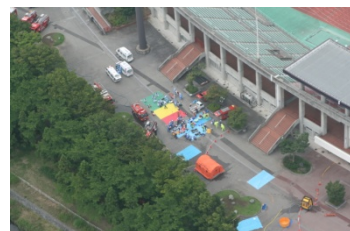
台風や地震などの災害発生時において地域住民の防災活動に対する啓発を図ることを目的とされた山梨県水防訓練が大月市笹子町で行われた。「あかふじ」にあっては台風による河川の増水を想定し、中州に取り残された要救助者2名を救出する訓練を行った。

『生物化学剤(BC災害)現場』

活動シミュレーション訓練

(甲府地区消防本部：平成20年7月18日)

小瀬スポーツ公園で甲府地区消防本部が特殊災害発生時(化学剤)における活動に対して的確迅速な判断と必要な知識、技術を習得する目的で生物化学剤(BC災害)現場活動シミュレーション訓練が行われた。航空隊は現場状況等の情報収集を実施、ヘリコプターテレビ伝送システムにより消防本部に画像伝送を行った。また、救急隊及びDMATによりトリアージされた重傷者1名を第3次救急医療機関に救急搬送を行った。



災害出動件数

	火災	救助	救急	その他	合計
平成19年度	6件	52件	16件	1件	75件
平成20年度	1件	15件	3件	1件	20件

(平成20年度については、7月31日現在)

各種合同訓練実施予定

- 8月31日 山梨県地震防災訓練
- 9月1日 甲府市防災訓練(甲府地区消防本部)
- 9月4・5日 隊員投入駐機訓練(都留市消防本部)
- 9月11日 雁坂トンネル総合防災訓練(東山梨消防本部)
- 9月16・17日 隊員投入実機訓練(都留市消防本部)
- 9月18・19日 隊員投入駐機訓練(東山梨消防本部)
- 9月28日 甲州市勝沼地区防災訓練(東山梨消防本部)
- 9月29・30日 隊員投入実機訓練(東山梨消防本部)
- 10月2日 林野火災防衛合同訓練(峡北消防本部)
- 10月29日 長野県防災訓練
- 11月19日 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
- 11月20日 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
- 12月1日 救急搬送合同訓練(山梨県消防学校救急標準課程)



新隊員紹介



隊長 丸山 裕司
(甲府地区消防本部)
平成20年4月派遣



隊員 長田 善輝
(富士五湖消防本部)
平成20年4月派遣



整備士 佐々木 勇
平成20年4月

ヘリコプターテレビ伝送システムについて

地震等の大規模災害や林野火災などで被害を最小限に抑えるためには、迅速かつ的確な情報収集と正確な情報伝達が不可欠です。

地上移動で広範囲の被災状況を収集するのは時間を要し、また被災状況を音声だけでは伝達しきれない部分があると思われる。

しかし、消防防災ヘリコプターに装備されているヘリコプターテレビ伝送システムを使用することにより、上空から広範囲な被災映像をリアルタイムに収集し、県庁に伝送することにより、的確な情報に基づく災害対策が立案可能となります。

このヘリコプターテレビ伝送システムは、「あかふじ」が撮影したテレビ映像を県内3か所（三ツ峠、身延山、南巨摩合同庁舎）にある中継局で受け、県庁にて視聴すると共に、財団法人自治体衛星通信機構の地域衛星通信ネットワークを利用し、国、他都道府県並びに全国の市町村、消防本部でも視聴することが可能です。

また、このシステムは、総務省消防庁の仕様で全国的に統一されていることから、他県から飛来した消防防災ヘリコプターが撮影したテレビ映像も受信可能です。

